

2011年 震災特集

震災で 友人を亡くすとは

4・5面へ

今月の主な内容

1面：住吉寮完全個室へ
4・5面：震災特集
8面：タッチフット学生日本一



塚本研 神戸ルミナリエ

光で照らす募金 85万円

ステージイベントも初企画

12月9日から13日まで開催された神戸ルミナリエ2010で、工学部の塚本研究室の学生らが手作りの募金箱で募金活動を行い、ルミナリエ継続のためにおよそ85万円を集めた。「募金してくれる人を楽しませたい」という思いが込められた5台の光る募金箱は、訪れた人々の注目を浴びた。

塚本研究室の学生らは、ルミナリエ継続のために3年前から研究成果を生かした独自の募金箱で募金活動を行っている。4回目となる今年は、硬貨を入れるとLEDが光り、アニメーションが再生される「電飾ツカフコ」など3種類の

新作を含む過去最多の5台体制。目標の100万円には届かなかったが、6日間でおよそ85万円を集め、昨年の47万円を大きく上回った。100万円へ届かなかったことについて、「雨で1日なくなりました。1日で20万以上集める日もあったのに」と話すのは、募金活動にあたった塚本研究室の川那部聖也さん(工・M2)。

植物の水やりをするように募金できる「植木んぼ」など、様々な趣向を凝らした募金箱に多くの人が足を止めた。2年前から光る募金箱へ募金しているという女性は、「お金を入れるのが楽しい。学生さんが頑張っているから、来年も続けて欲しいですね」と笑顔で話した。

また、同研究室はステージイベント「イルミネ神戸2010」を12月19日に兵庫県立美術館ミュージアムホールで行った。「神戸ルミナリエ」で毎年行われていた市民ステージが今年はなく、自分たちの手でやること企画。昨年まで市民

ステージに参加していた団体も含め13組が出演し、パフォーマンスを披露した。研究室の学生らは人の動きに合わせて映像が変化する「プロジェクト」や、電飾を内蔵した衣装を身にまとったダンスなど、先端技術を駆使したパフォーマンスで会場を盛り上げた。

実行委員の武田誠二さん(工学研究科・修士課程)は「初めて企画をすると思いが全然違った。やってよかった」と満足げな表情で話した。

【浅井淳平、田中郁考】



ワンルーム化の計画が持ち上がっている住吉寮 (12月15日・東灘区の住吉寮で 撮影=坂上正人)

2006年から始まっている。全5棟の内、北寮と新寮の改修は既に終了しているが、再びこれらの棟にも工事を進めようとしている。

「現場を知らぬ人間が勝手に決めるな」と思っている。住吉寮の寮母、山崎芳子さんは憤る。大学が寮生に話したのは昨年の11月25日。方針が正式決定されたのは5日後だ。山崎さんは「要望を」紙切れに書き添えたけど、「(大学は)考え直さないと」と不満をぶちまけた。

寮長の花木健太郎さん(経営・3年)は「寮じゃなく(寮生が)交流しなくてはならない」と危機感を募らせた。特に寮生同士の交流に欠かせない大浴場、食堂の設置については譲れない。また近くに食糧品を購入できる店がなく、そもそも自然乾燥の乾燥剤といった施設の実用面にも疑問を投げかけた。

【坂上正人、田中郁考】

住吉寮 完全個室へ

寮側は反発 動揺も

12月6日から20日にかけて寮の自治会が急ぎ進めた寮生アンケートは、31の回答のうち9割が大学の方針へ反対の意思を示した。結果をもって年明けには大学側に再検討を訴える。予算がおりるのは来年初。このままの内容で計画が実行に移された場合、立ち退き拒否も辞さない構えだ。

「現場を知らぬ人間が勝手に決めるな」と思っている。住吉寮の寮母、山崎芳子さんは憤る。大学が寮生に話したのは昨年の11月25日。方針が正式決定されたのは5日後だ。山崎さんは「要望を」紙切れに書き添えたけど、「(大学は)考え直さないと」と不満をぶちまけた。

寮長の花木健太郎さん(経営・3年)は「寮じゃなく(寮生が)交流しなくてはならない」と危機感を募らせた。特に寮生同士の交流に欠かせない大浴場、食堂の設置については譲れない。また近くに食糧品を購入できる店がなく、そもそも自然乾燥の乾燥剤といった施設の実用面にも疑問を投げかけた。

【坂上正人、田中郁考】

【坂上正人、田中郁考】

【坂上正人、田中郁考】

【坂上正人、田中郁考】

【坂上正人、田中郁考】

【坂上正人、田中郁考】

経済学研究科教授 学生にセクハラ 停職3ヶ月

神戸大は12月6日、20代の女子大学院生にセクハラ行為をしたとして、経済学研究科の40代男性教授を3ヶ月間の停職処分にしたと発表した。学生は精神的ショックで一時登校できなかつたが、現在は通常通りの授業に出席しているという。大学の発表によると、教授は7月上旬、研究室で相談を受けた際、女子学生に抱きつくなどして体に触ったという。

【浅井淳平】

【浅井淳平】

神戸大の笑顔が素敵な学生を紹介する「スマイル」。第4回はロングヘアが素敵な荒家里衣さん(医・1年)をクローズアップしました。



印象的な長い髪。高校生の頃は腰まで伸ばしていた。一度バッサリ切った。スマイル Vol.4

【坂上正人、田中郁考】

【坂上正人、田中郁考】

【坂上正人、田中郁考】

国文近くで衝突事故 学生負傷

国際文化学部近くのバス停(神戸国際文化学部前・阪神御影行き)付近で12月20日午前11時頃、原付バイクと乗用車の衝突事故が起きた。この事故で、原付バイクに乗っていた南條雄一郎さん(経営・3年)が巻き込まれ、病院に搬送された。警察から連絡をうけた経営学部は「比較的小さな事故だったが、重大な事態ではない」と話した。

【坂上正人、田中郁考】

【坂上正人、田中郁考】

新聞は、就活に必須! 1週間の試読ができます! 朝日新聞 日本経済新聞 灘区でのお申し込みは... ASA神戸なだ 神戸市灘区土山町1-13 0120-084013 Fax 078-851-8787 info@asa-kobenada.com

特集 震災で友人を亡くすとは

2011年1月17日、阪神・淡路大震災の発生から16年を迎える。44人(旧神戸商船大含む)の学生が犠牲となった神戸大も、校舎は新しくなり、当時を知る学生は少なくなった。震災を身近に感じることには難しいのかもしれない。

だが、立ち止まって考えてみたい。私たちと同じ年齢で命を落とした人がいたこと、そして彼らの姿を脳裏に焼きつけ生き続けている友人がいることを。地震はいつ起こるか分からない。震災で友人を失うとはどういうことか。「友人」というテーマを通して、震災を違った視点から見つめなおしてみたい。

「今」を大切に生きる

高見秀樹さんの友人 篠崎秀樹さん

高見さん(当時経済・3年)が応援部長となったのは、震災のたった1ヶ月前の12月。「すごいアツイやつでしたよ。日本男児っていうのかな」。後輩も、先輩も、同級生もみんなが納得の部長だった。

古風な男だった。学ランを着て、新撰組風の「誠」の文字が入ったカバンを持った姿が印象に残っている。応援団の幹部職を引き継ぐ時には、「神戸大を盛り上げた」というしゃかりした意気を持っていた。本人以外は、全員が高見さんを部長に推した。篠崎さん(当時経営・3年)は渉内長になった。

12月は応援に行くようなイベントや試合もなく、そのままたま。1995年の7日、応援団で新年会があり、摩耶山へ行った。山上の公園。後輩の所信表明のあと、高見さんが前に出る。「フレイブリーこうべ」。海に向かってエールを切った。最後のエールだった。

篠崎さんも高見さんも、名前は「秀樹」。それぞれの親の思いが込められた。同じ名を授かった。同じ名前、同じ部活。友人が命を落とし、自分は生き残った。高見さんの両親は墓参りなどで会うと喜んでくれるが、反面「辛いだろう」とも思う。

七回忌の日、鳥取の高見さんの実家に友人が集まった。初めは数十人いたが、時間が遅くなるにつれほとんど減っていく。寂しいな、父親の後継さん。就職結婚、子育て、みんな「その後」を歩んでいる。「僕の子供いないんだ」とう感じているように見えた。自分の顔を見せると、さういふ感情を思い出させることになる。それは理解した上で会わなければいけない、と考えている。

あれから16年。今も時折思い浮かぶのは家庭を持ち、亭主関白に振る舞う「現任」の友の姿。震災は未来をあまりに突然奪い去った。命はいつ終わるともわからない。篠崎さんは、毎日を大事に生きていこう決めた。「今を大切にしていこう」。あの時の友と同じ、学生時代を過ごす若者にも、そう伝えたい。

【坂上正人】

心の中で生き続ける友

中村公治さんの友人 井口克己さん

井口克己さん(当時経営・3年)が中村公治さん(当時経営・3年)を知ったのは大学の合格発表の時。同じ高校で、神戸大に合格した5人の中の1人だった。その後偶然にも同じ映画研究部に所属することになり、2人が親しくなるのに時間はかからなかった。「気の置けない奴だった」。大学では同じサークルの部長と幹部という間柄。一緒にバイトをしたり、バイクで北海道旅行に行ったりもした。2月には彼と友人で中国へ旅行に行こうと計画を立てていた。1月17日はそのためのバス

ポトを取得する予定だった。しかし、その計画が実行されることはなかった。1月17日の朝、また中村さんが部屋の中にいるという大家さんの連絡を受け、中村さんの下宿、西尾荘に急いだ。下敷きになった中村さんを助け出そうとしたが、なかなかうまくいかなかった。迫りくる地震後の火災。もう間に合わない。下宿を離れると、また生きていくかもしれない中村さんを残して、西尾荘は崩れ落ちた。次の日、ほとんどの骨だけになった中村さんのなきがらが見つかった。

自分の家と中村さんの家はわずか50メートルしか離れていなかった。にもかかわらず、自分の家が耐え抜いたのは、偶然自分が鉄筋の家を選択していた、というたまたまの理由だった。「命というものがこんな簡単な判断の違いでその長さを変えてしまうのか」。その運命を呪い、後悔の日々が続いた。それ以来、命を守るために自分のできることは最大限しようと思っようになった。

かつては、毎年1月17日が来る神戸に赴いていた。しかしある時、それは自己満足に過ぎないと気がついた。「今ではあまり

「1月17日」に固執しなくなった。区切りなんてつかない。思い出しその時を一番大切にしたい」。中村さんを失ってから、もはや彼のように生涯付き合っていく友人をもう一度作ることはできないだろう、そう思った。彼はもうこの世にはいない。だが、彼を忘れないでいる。彼を中心とした一つの絆が生まれた。中村さんの両親とのつながり、仲間とのつながり。そのつながりを細く長く続けていきたい。そうすることで、彼は心の中に生き続ける、そう信じて。

【松永さとみ】

何もできないうせめてずっと神戸で

競基弘さんの友人 奈良崎武志さん

JR六甲道駅から北西へおよそ40メートル。「六甲風の郷公園」に隣接するその場所には、かつて階段建ての文化住宅があった。

1995年1月17日。奈良崎武志さん(当時自然科学研究科・修士課程)は、朝から姿が見えない競基弘さん(当時自然科学研究科・修士課程)の下宿へ向かった。辺りは暗くなり始めていた。裏側に回ると、つぶれた階段部分と地面の間が

緑の靴下を履いた足が見えた。緑は競さんが好きな色だった。「もうその瞬間は何もできなかった。そのあとの記憶はない。競さんと大学入学後、すぐに仲良くなった。同じ授業を受け、合間を縫って野球やサッカーを楽しむ。競さんの下宿に泊まった。社交的で誰とでも話ができる競さんの周りには自然と人が集まった。

友人がそばにいないことを当然のことのように感じていた。突然いなくなる。そのことを表現する言葉が見つからない。言葉にしたとしても思わない。「できる」とは何もないね。彼(競さん)に対しても、両親に対しても。今でも野球をしているときの競さんの姿を思い出すことがある。投手の競さんが投げたボールを、捕手の奈良崎さんが受け取る。「いい球投げてたな。だがと続ける。「何を言っても、いないんだもん。それが悔しい」。

奈良崎さんには「いつ決めていることがある。それは神戸にいつついたら。就職も神戸の会社を選んだ。「いつ何かができるわけじゃないけど、みんな就職して離れて行ななで、僕は残ろうと決めた。勝手にね」。友人との思い出が眠る町で、一生暮らして行くつもりだ。

【浅井淳平】

亡き友の形見 ユーゴへ

加藤貴光さんの友人 村上友章さん

震災直後の1995年3月、被災児23人が旧ユーゴスラビアの市民にホームステイへ招待された。村上友章さん(当時法・2年)はその世話役を務めた。

しかし、迷いがあったという。国際関係に興味がある。内戦の傷跡が生々しいユーゴをその目で確かめたい。だが、震災で大変な思いをしている人が身近にたくさんいる。それに背をむけて、ユーゴへ行くのには自分はやさしいのか。そして何より、友人が亡くなっていた。

同じ国際関係の基礎ゼミの学友だった加藤貴光さん(当時法・2年)が、下宿

「1月17日」に固執しなくなった。区切りなんてつかない。思い出しその時を一番大切にしたい」。中村さんを失ってから、もはや彼のように生涯付き合っていく友人をもう一度作ることはできないだろう、そう思った。彼はもうこの世にはいない。だが、彼を忘れないでいる。彼を中心とした一つの絆が生まれた。中村さんの両親とのつながり、仲間とのつながり。そのつながりを細く長く続けていきたい。そうすることで、彼は心の中に生き続ける、そう信じて。

【松永さとみ】

【田中郁孝】

シミュレーション 今、大地震が起こったら

災害はいつでもどこで起きるかわからない。あなたは、今「大震災」に出会ったらと考えたことがあるだろうか。もしも現在、阪神・淡路大震災クラスの地震が起こったらどうなるか、「人と防災未来センター」研究主幹の紅谷昇平さんの話を元に、ニュースネットがシミュレートした。

!check 安全確保

まず「自分や家族の安全を確保」することが大切だ。震度7クラスの地震だとそれしかできない。消火や避難経路の確保は、揺れが収まった後で行う。漏電を防ぐためにブレーカーを切ることも忘れてはならない。

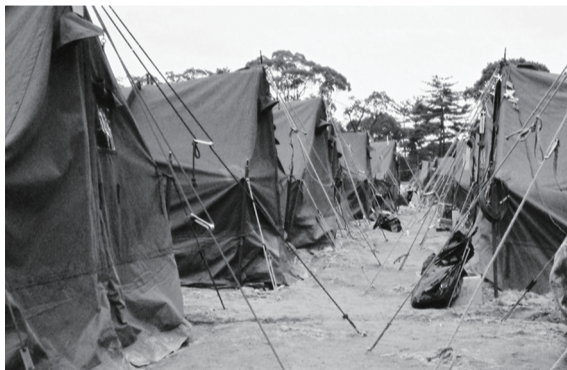
!check 住宅の耐震性

「灘区は、耐震性の低い古い住宅の多くが阪神淡路大震災で倒壊しているの、倒壊する建物数は減少する」という。ただし、阪神淡路で持ちこたえた建物も、次の大地震でも大丈夫とは言い切れない。また、木造住宅の場合、シロアリや腐食による経年劣化がある。維持管理が不適切ならば、新耐震基準（1981年以降）の住宅でも倒壊する可能性も。

!check 避難

避難先は地域の公共施設等だ。震災後の区画整理によって道路が拡張され避難しやすくなっているが、火災やガス漏れ等で通れない場合も考え、複数の避難先、避難ルートを考えておこう。

六甲道駅北地区の一部地域では小学校への避難ルートの道路の色が変わっている。身近な「減災」の工夫に敏感になっておこう。



参考写真（自衛隊のテントが設営された六甲台グラウンド・95年1月27日 撮影＝住田功一）

201X年9月24日の夕方、神戸市灘区が震度7の地震に襲われた。前日、朝までサークル仲間と遊んでいた神戸大生のKは、下宿で昼寝していた。

部屋のどこからかけたたましい音が鳴ってKは目が覚めた。眠い目をこすっていると、突然、下から突き上げるような激しい揺れ。地震だ。経験したことのないくらい大きい。とっさに布団をかぶった。揺れはおさまらない。

揺れが一度おさまった隙に外へ出ようとした。携帯を探すが見つからない。元から狭くて汚い部屋の中は机や棚からおちてきたもので更にぐちゃぐちゃ。とても探しだせる状況ではなかった。仕方なく何も持たずに外に出た。階段を降り、地上へ出る。

向かいの家はブロック塀は崩れてしまっており、壁に大きな亀裂が走っている家もあったが、意外にも見た目には周りの住宅に大きな被害はなかった。そういえば、うちの下宿は阪神淡路大震災の後に建てられたと大家さんが言っていたことを思い出した。

同じ下宿の住民やエプロン姿のおばさんが外に出てきていた。隣の家の窓から黒煙が出た。窓越しに炎も見える。火事だ。どんどん炎が燃え広がる。音は聞こえるが消防車は来ない。Kの下宿にも延焼しだしていた。空を見上げると、他の所でも煙が上がっていた。大家さんによれば下宿生は全員出てきたということだった。

周囲の人にならって避難所へ行くことにした。六甲道駅あたりは避難ルートの道路が色で塗り分けられていたので、それをたどって小学校に向かった。無傷の建物と、ダメージの大きい建物の差が大きい。

避難所の小学校の体育館に着いた。既にたくさんの方が来ていた。友人も何人か来ていて、無事を喜んだ。ふと、サークル仲間のNを思い出した。彼は無事だろうか。

連絡しようと思ったが、携帯がない。電話番号も携帯がないと分からなかった。来ていた友人はNのことを知らないの、どうにもならない。

余震で時折体育館がきしみ、みな不安そう。電気は未だつかない。結局眠れないままに夜を過ごした。



参考写真（被災した芦屋市の家屋・95年2月11日 撮影＝住田功一）

!check 携帯電話

携帯電話で情報をより早く発信、受信できる機能に、「緊急地震速報」と「災害伝言版」がある。緊急地震速報は、強い揺れが予想される地域に気象庁が地震の到達時刻や震度などを知らせる予報のこと。専用の警報音と共にメールが届く。しかし、iPhoneなど未対応の機種もあるので確認しておこう。災害伝言版は大規模災害時に安否情報の登録、確認をインターネット上で行えるシステム。ただ、災害時、どの連絡手段が使えるかは分からない。災害伝言ダイヤル(171番)など固定電話も活用し、家族や知人と連絡を取り合えるようにしておきたい。

基本的に携帯電話は使えるが、停電した場合、基地局の非常用燃料が切れると使用できなくなる。また、夜に被災した場合、携帯電話の場所が分からなくなることも考えられる。

!check インフラ

水道や道路などインフラの耐震化は進んでいる。しかし、実際に地震が起こったとき、どれだけ早く「復旧」するかは被災地域の広さも影響する。例えば電気は、阪神・淡路大震災では数時間から5、6日で復旧したが、東南海・南海地震のような広域災害では復旧に何ヶ月もかかるとも言われている。

私の生きようとする原動力

加藤貴光さんの母・りつこさん



加藤りつこさんは、貴光さんの友人に会うのが嬉しいことだと話す。「彼らと一緒にいると、貴光もそこよみがえっている感じがする。わが子の姿はもうこの世に見えない。だが、貴光さんが生前かわっていた友人たちに会うことで、二度も死なせてなるものか、とつこさんは思う。だから、会いに来てくれて嬉しい。しかし、その嬉しさの背中には必ず悲しみがある。「いつも心は張り合わせて。喜びがあったら悲しみがあるの。それはあの子がいないから」。

息子と同じ年頃の友人が会いに来ることで、悲しみが減っていくのではない。何をしても悲しい。いろいろな交友があったのか、と驚いた。和巳さんは、神戸での息子の生活ぶりを友人たちから聞き知った。それは貴光さんの白紙のアルバムを埋めていくような感覚だった。中でも和巳さんが「彼（貴光さん）の青春の香り」をかきとることができる貴重な場になったと話すのが、毎年1月17日深夜に開かれる居酒屋「現吉」での集いだ。競さん一家と友人数人が集い、競さんが生前アルバムをしながら集まり、杯を交わしながら思い出話や近況報告を花を咲かせる。「現吉」メンバーも、今や結婚し子をもつ人がほとんど。和巳さんは彼らに競さんの影を見え、「毎日彼（貴光さん）の写

遺族に聞く わが子と友人



生前、常に大勢の友人に囲まれていたという競弘さんが、工学部、ユースサイクリング部、ボランティア部、アルバイト。葬儀には、競弘さんとさまざまなつながりをもった友人が100人以上出席し、会場を埋めつくした。「こんなに

いし、誰といても悲しい。貴光さんが心から抜けることはない。「でもね、その悲しみがあるからこそ、深いところで感じられるのね。例えば、指を動かしてのね。あ、指が動くんだって。あの子は「な」になった時に動けなかったでしょ。」。悲しいから、息子の友人に会いたくないという気持ちはない。震災の3年後、旧ユーゴスラビアの子供たちを日本にホームステイさせた試みは息子の友人と共に成し遂げた。りつこさんはその出会った人たちのつながりを大切に温めてきた。「彼らのおかげで今また（人とのつながりが）次へ次へつながっていく。それで元気を貰ってきた。彼らと出会えたことがわたしの生きようとする原動力なんだよ」。

【新田理絵】

競弘さんの父・和巳さん 息子の「財産」大切にしたい

【浅井淳平】



2点目を入れ、調子をあげていく選手ら(12月26日・西宮市中央体育館で 撮影=深江友樹)

大差で勝利

残留まであと一押し

フットサルリーグ
第12節

関西フットサルリーグ第12節、神戸大チエリプロッサムが12月26日、西宮市中央体育館で行われた。前節まで1位で残留争いを続ける神戸大は、10-1で大勝し10位に浮上。最終節が引き分け以上であれば残留が決まる。

前半のうちに3得点。後半は前がかりにきた相手手を、カウンター攻撃で何度も仕留めた。大勝の陰の立役者は、G湯浅(1-2年)だった。キーパーに転向してから3ヵ月、リーグ2試合目のルーキーが、神戸大の攻撃を引っ張った。

「欲しいと思ったところに、ピタリとボールが来る(A上原主将、工・4年)。前線への正確なスローイングが持ち味だ。ダメ押しは3点目までアシ

10月の優勝をかけたリーグ最終戦でも武庫川女大に27-5で大敗していた。そんな中、リーグ戦が終了してからチームの意識が変わった。「負ければ今シーズン終わり、このままでは終われないという意識を一年生も含めチーム全体で持てた」と田中。一つ一つのプレーを大事に今までの練習を積んだ。そして、東西王座出場をかけたプレーオフを制し、1回戦の慶大戦では接戦をものにした。「ギリギリの試合に勝つことで成長していったのでは」と岡コーチは選手を称えた。

優勝を果たした神戸大は、全日本王座をかけたさくらボウル(1月3日・東京ドーム)に出場する。詳しくはニュースネット委員会HP(<http://home.kobe-u.com/top/newsnet/>)で。(12月27日現在)

【松本尚也、藤原里帆】

SPOR T S

タッチフット大学王座

8年ぶり悲願の学生日本一だ

悔しさバネにリベンジ果たす



宿敵を倒し、悲願の優勝を喜ぶ選手ら(11月23日・王子スタジアムで 撮影=松本尚也)

大学日本一を決める第19回東西大学王座決定戦(プリンスボウル)が11月23日王子スタジアム(兵庫県)で行われた。神戸大は1回戦、慶應義塾大を下し決勝に進出。決勝の相手はこれまで何度も苦杯を喫してきた宿敵、武庫川女大。神戸大は同点で迎えた第4Q3分、QB弓山(発達・2年)から主将のG田中(発達・3年)への決勝TDが決まり20-15で勝利した。8年ぶり5度目の大学日本一の座に輝いた。

悲願の優勝。田中は「今まで味わったことのない気持ち。ほんまに勝って良かった」と宿敵からの勝利の味をかみしめた。

昨年、神戸大は同大会の

誰かがその思いを胸に、悔しさを晴らすために一年間練習を積み重ねてきた。リベンジを喫し、決勝の舞台で武庫川女大に挑んだ。前半は14-7と神戸大がリードして折り返した。後半、同点を追いつかれるも田中のTDで突き放したかのように思えた。しかし、TFPでまさかのインターセプトを許しエンドゾーンまで持っていられ20-15に。試合の残り5分、攻撃権は武庫川女大と逆転の危機にたまたされた。「昨年と同じような嫌な感じがした。4年間(武庫川女大)に、いいイメージを持っていないかった」と野村(発達・4年)。野村ら4年生が1年生の時から、重要な試合で何度も武庫川女大の前に悔しい思いをしていた。選手らは必至の準備を展開。素早いプレッシャーでQBにパスをさせずファーストダウンを許さなかった。

試合後、岡コーチは「(8年前とは違って)ずっと強いチームという感じではなかった」とこれまでを振り返った。春の関西学生トーナメント決勝で武庫川女大に14-21で敗北、

がリードして折り返した。後半、同点を追いつかれるも田中のTDで突き放したかのように思えた。しかし、TFPでまさかのインターセプトを許しエンドゾーンまで持っていられ20-15に。試合の残り5分、攻撃権は武庫川女大と逆転の危機にたまたされた。「昨年と同じような嫌な感じがした。4年間(武庫川女大)に、いいイメージを持っていないかった」と野村(発達・4年)。野村ら4年生が1年生の時から、重要な試合で何度も武庫川女大の前に悔しい思いをしていた。選手らは必至の準備を展開。素早いプレッシャーでQBにパスをさせずファーストダウンを許さなかった。

試合後、岡コーチは「(8年前とは違って)ずっと強いチームという感じではなかった」とこれまでを振り返った。春の関西学生トーナメント決勝で武庫川女大に14-21で敗北、

●第19回タッチフット東西大学王座決定戦(11月23日・王子スタジアム)

▽決勝

神戸大	0	14	0	6	=20
武庫川女大	7	0	0	8	=15

▽1回戦

神戸大	0	7	0	0	=7
慶應義塾大	6	0	0	0	=6

●関西学生アメフトリーグ第7節(11月28日・神戸ユニバー記念競技場)

神戸大	7	7	0	7	=21
近畿大	0	0	0	7	=7

☆最終成績
戦績：3勝4敗
順位：1部5位(8校中)

●関西フットサルリーグ

▽第11節(12月5日・加古川市立総合体育館)

神戸大	2	0	-1	1	funf bein	2-0
-----	---	---	----	---	-----------	-----

▽第12節(12月26日・西宮市中央体育館)

神戸大	10	3	-0	1	チエリプロッサム	7-1
-----	----	---	----	---	----------	-----

●関西カヌーレーシング選手権大会(10月10日・宍粟市音水湖カヌー競技場)

▽男子

カヤックシングル	500メートル
川崎純太郎	F1位 1分54秒20
カナディアンシングル	500メートル
笹淵美寛	F1位 2分13秒87

●2010びわ湖大学駅伝兼関西学生対抗駅伝競走大会(11月20日・滋賀県長浜市西浅井支所から大津市膳所城跡公園まで)

1位(1)	京都産業大	4時間13分54秒
2位(2)	立命館大	4時間16分35秒
3位	大一工業大	4時間18分25秒
11位(10)	京都大	4時間26分56秒
=====シード権獲得=====		
12位(11)	神戸大	4時間27分35秒

注：カッコ内は関西学生対抗駅伝競走大会での順位

ウインドサーフィン部

木本菜那さん(農・4年)

全日本学生ボードセーリング選手権大会
神戸大初の優勝



笑顔で表彰を受ける木本さん(中央)(提供=木本菜那さん)

本選は9レース。1日目暫定1位になると、2日目は得意とする風速6メートル前後。4レース中3レースで1位となり、3日目の最初のレースで優勝を決めた。「あまり実感かわ

かななかったけど、2位の子に「おめでとう」と言われて笑顔が出た。

ウインドサーフィンを始めたのは大学から。どんな自分の技術が上がっていき、それが楽しかった。レースのたびに成長を実感しているという気持ちがあった。だが、3年生のとき、入賞(6位)を狙った度目のインカレで8位。授業などで忙しく、あまり練習ができていなかったことが反省のきっかけとなった。自信をもって挑んだ最後のインカレは「だいぶ落ちてきてきた」と振り返る。

ウインドサーフィンの魅力はわからない。「乗っていると楽しい」としか言えない。来季2月は大学対抗戦がある。寒い冬は苦手だが「目標に向かって頑張る」。【浅井淳平】

若手が成長 有終の美で5位

来季の活躍に期待



今季2年生ながらQBとして攻撃陣を引っ張った林

関西学生アメリカンフットボールリーグ最終節、神戸大・近畿大が11月28日、神戸ユニバー記念競技場で行われた。神戸大は第1Q、WR岡本(経営4年)が40ヤードのパントリターTDを決め先制。最後までリードを許さず21-7で勝利した。これで3勝4敗となり、8校中5位で今シーズンを終えた。

秋季リーグ開幕前、入替戦候補とまで言われていたチームが有終の美を飾った。

「一部の中心で一番下だと言われていた」(DL 庭山主将)。春季は3部の期待もあると思う。僕が成長しないと来季の活躍を誓った。守備では2年生のDL白石も試合を積み重ねて成長した。この試合ではチーム唯一のQBサックを2度決めた。庭山は「今年は若いチームだった。(経験がある)おれと昨年(リーグ7位で入替戦)のようになるかもしれない。だが自信を持ってほしい。やれるやつらなんだ」と思いを託した。【松本尚也】

シート権届かず

関西学生駅伝

2010びわ湖大学駅伝兼第72回関西学生対抗駅伝競走大会が11月20日、滋賀県長浜市西浅井支所から大津市膳所城跡公園までの8区間83.6キロで行われた。神戸大は9区の蔵(1-4年)が区間6位と健闘するなど中盤まで総合9位(関西8位)の位置に付けた。しかし、最終順位を下げ、総合12位(関西11位)でゴール。シート権が与えられる関西10位以内にはあと一歩届かなかった。

前大会では過去最高位となる総合10位(関西8位)に入った神戸大だったが、2年連続シート権を得ることができなかった。